「先生が、何時何分に乗るのか教えてくれなかったもん！」
ーなぜ、電車に乗らなかったのかー

NPO（特定非営利活動法人）　ゆめ
竹上　道邦（元特別支援学級担任）

久しぶりに、特別支援学級の教え子や保護者と同窓会をしました。
話題が、学級で子どもたちと取り組んだ「乗車体験」の話になりました。
「先生、ぼく、いっぱいいっぱいやたんやで！」（怒り）
「〇〇ちゃんと◇◇くんを連れて、『がんばれ！』なんて、無茶やと思った」
「『まかした』と言われたけど、大変さをわかっていたのか！」（怒り）
当時、あまり強く自分を出すことなく、しゃべることが少なかった彼が、今は、まあ、ペラペラとよくしゃべるわ、しゃべるわ・・

私は、学級での生活単元学習として、電車の体験学習を大事に毎年取り組んできました。学校の横を走っている山陽電車。子どもたちは電車が大好きです。交通機関の利用は、社会に出ての自立を考える時、とても大切と考えるからです。
「電車にのって、自分たちで動物園に行こう！」という目標をみんなで共有し、楽しみに、電車の乗り方や電車の学習に取り組んでいきます。
当日は学校から仲間と出発です。担任はゴールまでいません。リーダーはみんなの世話をし、みんながリーダーを頼って・・！

なぜ、乗らなかったのか？
ホームで隠れて見守ってくださっていたお母さんから、「先生、来た電車にのりません」と連絡。ホームで電車が来たのに、乗り過ごしてしまったそうです。
「あの時、先生は、何分に乗れと教えてくれなかったから‥。」
来た電車にのるであろうと思っていたけど、・・
子どもたちは、教えてもらっていない状況に戸惑い、そして、自分たちで決め、みんなで次の電車にのったのだそうです。
あの時のみんなの姿が、目の前に浮かんできます。
「何分の電車、〇〇の電車の一番後ろ・・。」等など
もっともっと細かいプログラムを提示すべきだったのだろうか？
予期しない状況に、自分で考え、決める。仲間に頼られ、支え合い・・。
やりきって、３人で本当にうれしそうにゴールにやってきたのです。

「〇〇くんなら、きっと、できるだろうって、信じてたから」私
「まあね」〇〇くん
いろんな子どもたちに出会うたびに、教えられることがいっぱいです。